



# 彩の山

## 埼玉支部報 第 42 号

《題字 松本敏夫》

### 【目次】

《新年度に向けて》	大山光一	1	スキー同好会のご案内	古川史典	20
2024年度通常総会報告	林 信行	3	市街地・低山での読図山行	松本敏夫	22
山行報告			北本シンポジウム報告	小原茂延	24
四季の山・冬山「硫黄岳」	朝井紀久子	4	秩父・森づくり活動報告	平井 孝	26
大久保春美記念ふれあい登山	若林優子	7	「彩の山研究会」便り	小原茂延	27
4月月例「古賀志山」	宮崎則子	8	第37回全国支部懇談会報告	松本敏夫	29
5月月例「大室山・檜洞丸」	朝井紀久子	11	第6期埼玉やま塾実施報告	塚越和子	30
5月月例「大菩薩嶺」	大野国光	14	ペンリレー 第6回		32
清掃登山「大高取山」	若林優子	16	「早春の寒葵と葵の御紋」	萩原みか	
平日山行倶楽部	高橋 努	17	新入会員自己紹介	林 信行	33
伊豆大島・三原山	今山 健	17	事務局より	林 信行	34
赤城山・鍋割山	行方真由美	18	編集後記	橋本久子	35
遠見尾根・雪上訓練（個人山行）	高倉洋一	19			

## 《 新年度に向けて 》

支部長 大山光一

第15回埼玉支部通常総会が、4月13日（土）埼玉会館に於いて開催されました。議長選出後、議案の審議が行われ、原案通り承認されました。新たな役員を加えて、各委員会が掲げた年間活動計画の完全消化に向けた取り組みが始まります。

総会終了後、懇親会までの繋ぎに講演をする機会をいただきました。人類が経験したことのない「人生100年時代」を迎え、目的・目標を持った人生を歩んでいただきたい旨を語りました。

その後の懇親会は、会員同士の近況報告や山への想いを語る時間となり、和やかな雰囲気にも包まれた時を過ごすことができました。一方、新旧会員の交流を期待しましたが、新入会員の参加者が少なく空振り感が否めません。

総会は、一年間の総括と今後の組織の山積する課題解決に向けて、あるいは中長期的な将来の展望や方向性を確認する重要な場です。山に登りたくて入会するのはわかりますが、権利と義務を有する会員として、総会に出席することも大事な役割です。

登山における先輩と後輩の人間関係を背景にした会員の意識と仲間探しの手段として組織に加わる会員の意識、あるいはツアー感覚の入会者の会員の意識では、大きな乖離があり、組織運営の難しさがあります。

埼玉支部の永年会員（在籍50年以上）は会員（準会員を含む）の10%を超え、先輩諸氏の歩んだ時代背景を重ねると、あまりにも環境が異なり支部の諸活動への関心が希薄なのは理解できますが、組織に参加することの意味（メリット）や個人の果たす役割や責務も生じることを理解して入会して欲しいです。

また、少子高齢化に伴い組織運営や各委員会を担う人材不足が顕在化している現況では、登山界の歴史や伝統を伝える機会も少なく、入会してまもない会員に負担をかけているのが現状です。

従って、当面は各委員会の運営に関して委員長及び副委員長を中心に、活動計画が遂行できる体制を構築して、活動の可視化、速やかな報告、等を適宜行うことで対応していかざるを得ない。そのためには、各委員会に関わるひとり一人の委員が与えられた任務を理解して、適切な判断と行動をお願いしたい。

勿論、組織の運営に関する案件、あるいは各委員会の事案・課題、等は支部委員会に提案し、協議し、決定します。そのひとつひとつの判断や決断が蓄積され、埼玉支部の組織強化に繋がると確信しています。

また、埼玉支部の課題である指導者及びリーダー不足の解消に向けた対策として、従来の個々人の希望ではなく、組織運営と存続を重視し、支部活動に理解のある会員を、本部の指導者養成講座や加盟団体主催の研修会や講習会への積極的な参加要請を支部委員会として推進します。多くの学ぶ機会を通して、組織の活性化に繋げる一助としたい。

埼玉やま塾で学んだ行動力に溢れる卒業生会員と歴史と伝統のある日本山岳会の固い絆で結ばれた諸先輩方、また、随時入会される登山者の中に即戦力が期待できる人材も多く、在籍しています。

それぞれの登山観があり、入会の動機も求める登山形態も異なりますが、安全に山を登りたいという共通点があり、その傘下に寄り添う個々人の山への想い、立ち位置は同じだと考えています。

安全登山の基本は、自分を知り、「登りたい山ではなく、登れる山を登る」ということです。体験と経験を重ねることで判断力が養われます。その成長過程が乏しいと適切な決断ができません。

そして体力は勿論ですが、ひとり一人が必要な登山知識と技術を学び、山仲間とともに、憧憬の山々にチャレンジする。そんな近い未来を想像しています。

登山行動の指針として「仲間の安全・家族の安心」を掲げるのは、誰一人、遭難や事故に遭遇してほしくないからです。セルフレスキューを心掛けて、「転ばぬ先の杖」とする。その基本を繰り返し、学びを重ねて、高い知識と高度な登山技術を備えれば、安全に登れる山域が広がります。

今年の GW も山岳遭難が多発しました。統計によれば、遭難救助の要請は道迷い、滑落、転落、等々。また、疲労で歩けなくなったからと安易に救助要請する登山者も多いと伺っています。遭難のシミュレーションはありません。すべて先人の尊い犠牲からでしか学べないからです。

自分を知る。自然が相手の登山では「油断と過信」は禁物です。ひとり一人が肝に銘じて、常に安全を意識した行動をお願いします。そして、会員の皆さんの一年間の登山活動が実り多きことを願っています。

## 2024年度 埼玉支部通常総会 報告

事務局長 林 信行

1、期日：2024年4月13日（土）14時00分から15時30分

2、場所：埼玉会館 7A会議室

轟副支部長の進行により開会、大山支部長から2023年度の総括と今後の活動について挨拶があった。在籍正会員数119名のところ出席者37名及び委任状57名、合計94名となり、出席と委任状を加え会員現在数の1/3以上となり、総会は成立、支部規約第14条により大山支部長が議長となり、轟副支部長の進行で議事が進められた。

### 1号議案 2023年度事業報告（案）及び収支決算（案）について

林事務局長より2023年度事業報告、轟副支部長より収支決算報告があり、龍監事より監査報告があり承認された。

### 2号議案 2024年度公益社団法人日本山岳会埼玉支部役員（案）承認の件

2024年度役員について事務局から7名の新役員が提案され承認された。任期は2年間である。

### 3号議案 2024年度事業計画（案）及び収支予算（案）承認の件

林事務局長より2024年度事業計画、轟副支部長より収支予算について提案され承認された。

### 4号議案 公益社団法人日本山岳会埼玉支部規約改正（案）について

規約で支部役員は正会員に限るとされていたが、幅広く準会員でも選出可能になるよう提案があり規約改正、今後準会員からも選出可能として承認された。

つづいて「埼玉やま塾」大山塾長より2023年度第5期埼玉やま塾の報告、松本山岳古道調査プロジェクト副委員長より日本山岳会120周年記念事業「全国山岳古道調査」の埼玉支部の現況について報告があった。また、日本山岳会創立120周年グレート・ヒマラヤ・トラバースに参加する轟涼会員より計画概要の説明があり、15時30分閉会となった。

引き続き15時30分から大山支部長の講演「夢抱き 夢育み 夢実現」～人生はチャレンジ～、17時からは同じ埼玉会館内のフレンチレストラン「ビストロやま」に会場を変えて懇親会を開催、新人紹介、委員会紹介、同好会紹介等も取り入れ楽しい時間を過ごした。



【山行報告】四季の山・冬山「硫黄岳」

山行委員 朝井紀久子

\*日 程：2024年 3月23日（土）～24日（日）

\*場 所：硫黄岳 2,760m（八ヶ岳）

\*参加者：高倉洋一、塚越和子、那須朋美、平本真二郎、平本美恵子、朝井紀久子(SL)、飯塚雅信(CL) 計7名

\*天 候：[3/23] 小雪、気温1度、風なし。（眺望：登山周囲は良し。山上はガス）  
[3/24] 早朝晴れのち曇り。気温2度→下山中10度、風なし（眺望：良好）

\*行 程：

[3/23] 電車組と前泊組を茅野駅で車1台がピックアップ。残り1台と美濃戸口P集合。

10:15 美濃戸口 →美濃戸山荘ゲート 12:10 →(北沢ルート)

→13:10 堰堤広場 13:25 →15:50 赤岳鉱泉（泊）

[3/24] 6:00 朝食 →8:00 赤岳鉱泉発 →9:18 中山展望台 9:32

→10:10 行者小屋 10:35 →(南沢ルート) →12:45 美濃戸山荘ゲート

→14:00 美濃戸口 P下山。

八ヶ岳山荘で休憩後 15:00 解散（車1台は電車組が同乗。他1台は別で、それぞれ帰路）。

**\*山行概要：**

数日前予報で、低気圧前線の影響で、暴風と雨(又は雪)の影響が懸念されましたが、2日目の登頂日は回復傾向の予報あり決行。初日は小雪の中、宿泊する赤岳鉱泉までゆっくりながら安定したペースで足並み揃い進みます。途中からアイゼン装着。数日間の降雪があり、高度が上がる程に新雪の樹林帯となっていきます。会話も弾み、それぞれの動きも見え、安心する中で、宿泊する赤岳鉱泉に到着。

北沢ルート→



受付時に小屋職員から「新雪が乗り、状態はかなり悪い。硫黄岳への途中の“赤岩の頭”直下で雪崩のリスクがある。雪状態を見極められないなら、硫黄岳は行かない方が良い」と真剣な表情で助言されました。また、他宿泊客で登山ガイドの方から「この状態は行ける。直下で本来右に撒いて進むルートを、雪崩を避けるため直登する事で行ける」との考えのシェアが有りました。直ぐに飯塚Lに伝え、部屋で全体ミーティング。明日の山天気予報については悪くは無い。雪崩リスクをどう判断するか。明日、樹林帯を抜ける手前までは行って見て、状況を判断してみるか、との意見が出ました。また、硫黄岳を断念して下山する場合は、行者小屋との間にある中山展望台で八ヶ岳の展望を味わおう、という提案もメンバーからありました。赤岳鉱泉ならではのステーキの夕食や談話も存分に味わい、定時に就寝。

翌朝すぐ飯塚Lから「やはり硫黄岳には行かず、中山展望台へ寄って下山しよう」との意思表示がありました。朝井SLも他参加メンバーも、一瞬考えた後、間もなく飯塚Lの方針に合意しました。その後は、参加者皆さん、気持ちを切り替えて、身支度のし直しなど、明るく会話しながらさ

れる様子は、とても前向きな雰囲気でした。ゆったりと会話や準備もした後、当初の硫黄岳登頂への予定より 1 時間遅らせ、赤岳鉱泉を出発。

途中の新雪が積もった広地で、今回の雪崩リスクへの理解を深める勉強として、[弱層テスト](#)を試みました。いくつかの方法は有るのかもと思いますが、今回は、その場にある道具で可能な方法として、飯塚Lが持参されたスコップを用いて実施。飯塚Lのご指導と、他参加者からも知り得ている範囲での知識シェアも得ながら、その場に 50 cm 程の四角柱を掘り出し、抱えてずらすことで、被動性のギャップ層を見て感じるという事が出来ました。具体的には新雪表層より 40 cm 程下部に氷結層が 3 cm 程度、掘削中も確認でき、抱え動かす時もその層付近でのギャップを感じられたように思います。実際は、登山を進める時に行う評価法と思われませんが、勉強になりました。



《弱層テスト》

その後に行った中山展望台では、天候も良かった為、大きく阿弥陀岳・赤岳・横岳が目の前に並び、そしてその先に硫黄岳の稜線が見えました。暫く展望を満喫した後、行者小屋、そして南沢ルートを経て、美濃戸口へ無事下山。特に怪我や体調不良なく、下山口の八ヶ岳山荘では、じっくりティータイムを皆で味わい沢山の会話を楽しみ、解散となりました。



《硫黄岳 ～中山展望台～》

今回の山行では、残念ながら雪山の硫黄岳への登頂は叶いませんでした。皆、残念だったと思います。しかし、雪山でのリスクへの判断ということ、今回は何よりも大きなお土産として得たのではないかと思います。風もなく天候も良い中で、一見、楽しく登頂できそうにも思えますが、情報を得て、しっかり総合的な判断をリーダーがして下さったこと、そしてそれに従い、皆が前向きに学び、改めて楽しむ気持ちを持っていることに、頭が下がる想いを抱けた清々しい山行でした。



## ■参加者の感想

### 【那須朋美】

集合のため八ヶ岳山荘に向かう途中小淵沢を過ぎたあたりから駐車場までたどり着けるかも心配になるほどの雪景色でしたが、無事に楽しく参加できたので何よりでした。

色々と本当に楽しかったです。

### 【塚越和子】

赤岳鉱泉まで雪が降り続きましたが、冷たなくて、むしろ暖かさを、感じる雪でした。多分、皆様とお話ししながら楽しく歩けたせいでしょうか。

雨も雪もその時の気持ちによって暖かく感じるものなんですね。

硫黄岳は、残念でしたが、安全が1番ですし、美しい雪の八ヶ岳を、存分に楽しめました。皆様のお話も勉強になりました。ありがとうございました。

### 【高倉洋一】

今回私にとっては、降雪下の歩行、装備の着脱も含めた雪山登山に慣れる機会になりました。また「弱層テスト」なるものを初めて知り、雪崩リスクに関心を持つきっかけにもなりました。朝井さんの周到的な準備と飯塚さんの要所要所でのご判断・ご指導のお陰で、今シーズン最後の辺りの雪山山行を楽しむことができました。

### 【平本真二郎】

雪が降る中、八ヶ岳山荘をスタートし登山靴のみで林道を歩く中でスリップが多くなり、途中でアイゼンを装着しての歩行となりました。

赤岳山荘からは本格的な雪道となり、新雪の中 12 本アイゼンの感触を感じながら赤岳鉱泉に到着しました。山小屋では晩御飯のステーキ、朝食の焼き魚を大変おいしく頂きました。

翌日は雪の状態でコース変更となりましたが、晴天に恵まれ赤岳、阿弥陀岳の迫力の山容を見ることができ楽しい山行となりました。

### 【平本美恵子】

ザクザクとアイゼンで歩くのが面白くてアツという間に山小屋に着き、到着後は部屋でのホッと一息のお茶うけや夕食のステーキのボリューム満点に驚きながら美味しくワイワイと最高に楽しい時間を過ごせました。翌日は硫黄岳から中山展望台になりましたが、そこからの景色は見ごたえがあり大満足でした。また、雪崩の危険性を見る「弱層テスト」は貴重な体験となりました。楽しい山行をありがとうございました。

### 【飯塚雅信(CL)】 \* 総括 \*

前日までの凍った氷の上に新雪が積もった状況は長い山歴でも初めてで、雪崩が心配で2日目急な変更をお願いしてしまいました。降りてきたら雪が解けていて初日の雪はどこに消えたのとキツネにつままれた気分でした。新雪の山でしたが、トレースが付いていてラッセルもなく、楽しい山行とじていただければ幸いです。

## 【山行報告】大久保春美記念・ふれあい登山「仙元山」事業報告

社会貢献委員長 若林優子

【実施日】令和6年4月6日(土) 曇り時々晴れ

【目的】障がいを持つ方に、スポーツ活動の充実する機会および山の楽しさや自然の素晴らしさの体験の創出

【実施場所】小川町 仙元山

【参加人数】支部会員 31名、障害者スポーツ協会 3名、一般参加者 17名・同伴者 14名  
総数65名

【コース】9:40 小川町役場→11:00 見晴らしの丘→11:50 仙元山→13:20 下里八宮神社登山口  
→13:20 旧小川小学校→13:40 カタクリとニリンソウの里→14:30 八宮神社  
→15:00 小川町駅

### 【事業報告】

途中でリタイアされた方があったものの、それ以外は大きな遅れもなく、トラブルや怪我もなく下山できた。各班とも支部会員と参加者との積極的な交流が活発に行われたようである。次回は皆が聞きたいことなどを協会に確認し、事前共有したい。

支部会員より事前にコースの確認をしたいため、早めに地図がほしいとの意見もいただいた。協会とともにコースの確定を1か月前くらいには行う。

コース設定について、協会は今後も今回と同じ程度の難易度が望ましいとのこと。コース内容については、参加者より街歩きが長いとの声もあった。

今までのアンケートの意見を反映し、初の土曜日開催とした。今回のアンケート結果により、土曜開催・日曜開催どちらが良いか検討したい。

曜日変更により、例年参加していただいていた方の一部で混乱があったため、募集の際に開催日の記載を目立つようにするなど注意する。



【活動所感】

大久保春美記念第 14 回ふれあい登山を小川町 仙元山で開催いたしました。

今年度のふれあい登山はコロナ禍以前の形式に戻しての実施とのことで、常連の方はもちろん初参加の方も多数おり、より多くの方に参加していただきました。ふれあい登山常連の方からは「楽しみにしていた」、又、初参加の方からは「思い切って チャレンジしてみてよかった」とのお言葉をいただき、それまでの不安が一気に吹き飛びました。

天候は残念ながら快晴とはいきませんでした、ちょうど春の花の開花時期とあって、見晴らしの丘や旧小川小学校の校庭では桜が満開、カタクリとニリンソウの里ではカタクリの花があちらこちらで咲いていました。道中でも様々な花を見ることができ、今回のふれあい登山のテーマである「春の花を楽しむ登山」を皆様に楽しんでいただけたと存じます。



また、コロナ禍での会話自粛もなくなったため、どの班も積極的なコミュニケーションがとれ、大変にぎやかな山行になりました。

今回は初めての試みとして土曜日開催にしましたが、翌日が休日の方も多いため疲れた身体をゆっくり休めることができたのではないかと存じます。今回、新たな課題も出ましたので次回に活かしてふれあい登山をさらにパワーアップしていく所存です。

最後になりましたが、開催にあたり多くの方にご教授、ご協力いただきました。皆様にはこの場をお借りしてお礼申し上げます。

【山行報告】 4 月 月例山行「古賀志山」

山行委員 宮崎則子

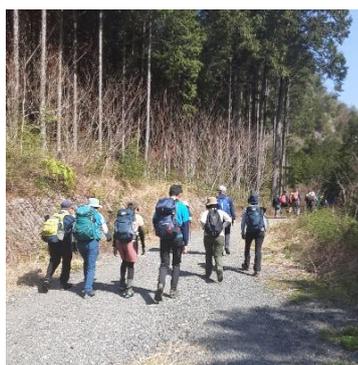
- ◆日程 2024年 4月 14日(日) 晴れ
- ◆場所 古賀志山 582.8m (栃木県宇都宮市)
- ◆参加者 東洋子、町田美春、塚越和子、田中健介、浅田稔、天池稚力、吉田湖恵、坂倉理恵 (CL)、宮崎則子 (SL) 9名
- ◆集合 宇都宮森林公園駐車場
- ◆行程 8:50 駐車場→9:14 登山口→9:54 広場→10:06 富士見峠→10:23 東陵見晴→10:34 古賀志山山頂→岩稜・鎖→10:46 御岳山 11:50→12:11 南コース→13:25 森林公園駐車場
- 合計時間 約4時間42分 (休憩時間1時間40分)
- 距離 約6.9km
- ◆装備 日帰り登山装備 行動食、雨具、昼食、飲料水、ヘッドライト、ファーストエイド
- ◆行程概要

東さん、浅田さんの車に同乗させて頂けたおかげで公共交通機関を使った行程より約1時間早い出発になりました。快晴、桜の満開にも間に合い絶好の「お花見登山」でした。

山道も息を切らすほどの急登は少なく、新入会員を含め参加メンバーが和気あいあいと話しながら親睦を深めながら歩けたのが新年度初の山行として良かったと思えました。



山道は標識も整って道迷いの心配も無く、道端の草花をじっくり観察できる余裕もありました。御岳山に登る岩稜地帯の梯子、鎖などチョッピリ、ヒヤヒヤドキドキ感を味わえたのも良いスパイスだったのでは？古賀志山頂からの遠望（関東平野）は春霞の為ボンヤリでしたが、御岳山頂から日光男体山中心に連なる山々を眺めながら「次はあの山に登ろう！」と益々登山意欲が湧いた方々もいらっしゃるのではないのでしょうか？



出発時間を早める事が出来た事、参加メンバーの歩行ペースも揃っていたので休憩時間を十分に取ながらも1時間以上早く下山出来ました。

## ■参加者の感想

### 【塚越和子】

今日は、お天気にも恵まれ楽しい山歩きができました。木々の濃い緑と薄い緑が、混ざった中に点在する桜の美しいピンクが、印象的でした。鎖場もありましたが、ゆっくりとランチもできて楽しい1日でした。

### 【天池稚力】

CL 坂倉さん、SL 宮崎さん事前確認、写真撮影、会計も含めて感謝致します。又、桜の見頃の時期を見事あてて頂き、参加者一同、春爛漫の山行を満喫させて頂きました。本当にお疲れ様でした。



**【田中健介】**

今回の山行にタイトルを付けるならば、「初めて尽くし」になります。なにが初めてかという、私にとって”日本山岳会に入会して”、”埼玉支部のみなさんとの”、”日本百低山の登山”、と更に続きますが、ここまでにします。初めてにつきものの期待と不安がありましたが、無事に下山して日常の中で振り返ると、思い切って飛び込んでよかったと思える機会となりました。先輩方の企画とご経験、入念な準備のおかげです。この場を借りて感謝を述べさせていただきます。またご一緒させていただいた皆様も初対面にもかかわらず、フレンドリーに接していただき楽しく過ごすことができました。またご一緒できる機会を楽しみにしております。

**【東 洋子】**

晴天に恵まれて、まるで“絵画”のような中でのハイキングでした。何年か？前の、まだ山行委員だった頃に、企画？計画してことがあったのですが、コースが多くて迷ってしまい、とても人を連れて歩けるどころでは無い！と思い提案を辞めた記憶が有ります。今回は、何度も下見登山をされたリーダーの下、予定よりも早く下山ができました。ありがとう。

**【宮崎則子】**

2月に下見で行った時は、公共交通機関を使用したのでアクセスに時間がかかり、それが一番の難題でした。当日は参加者の車に同乗出来たので、この問題はあっさりクリア出来ホッとしました。3月下旬の冷え込みで桜開花時期が遅れたのも幸いして、桜も丁度見頃でした。又、2月は赤川ダムの水が抜かれて茶色の湖底が露出して殺風景でしたが、当日は満々と水を湛えた湖面に岸辺の桜並木が美しく映り込み同じ場所とは思えないほどの変身でした。無事に山行が出来た事が何よりです。

**【浅田 稔】**

天候に恵まれ、早春の山々の淡い緑色を満喫しました。皇海山・白根山・男体山・高原山とこれまで登った山も見渡せ楽しい山行でした。

**【吉田湖恵】**

古賀志山は以前から行ってみたかった山で今回の山行もとても楽しみにしておりました。運良くお天気に恵まれ桜も見頃で新緑ときれいなお花に癒やされました。ちょっとした鎖場、梯子も刺激的でしたね。参加メンバーの皆さま、ご一緒出来て楽しかったです。ありがとうございました。

**【町田美春】**

暑いくらいの陽気でしたが、湖のほとりの桜は満開で後ろに聳え立つ古賀志山の新緑に湖と青空が見事なコントラストで映え、目に焼き付いています。古賀志山は岩場もあり足慣らしにはよかったです。担当の方、お疲れさまでした。

**【坂倉理恵】**

行ったことのない山の CL を担当することになり、1月の寒空の中、SL 宮崎さんと下見に行った。

古賀志山はルートが多岐に渡るため、道標がない分岐も多々あり、やはり不安で 2 人ともそれぞれにもう一度下見に行ってしまった。本番は春爛漫な季節。スマレがたくさん咲くよ！と聞いていたが、3 月の二度目の時にも何もなく、本当に花なんて咲くんだろうかと疑心だったが、本番の日には、歩いてても歩いててもかわいいスマレが横にいた。ピンクと若草色に彩られた山容が、真冬のそれとは別物に変わっていた。同じ山行は二つとない。東さん、浅田さん、田中さんの車出しのおかげで全員が同乗でき、予定より早出早帰りとなった。足並みがそろい、春山を感じながらみんなで楽しく歩くことができた。ご協力くださった参加者の皆さまと、ナイスフォローの几帳面な SL 宮崎さんに感謝！



**【山行報告】 5 月 月例山行「大室山・檜洞丸」**

山行委員 朝井紀久子

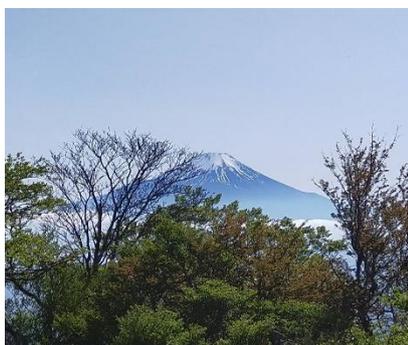
- \*日 程：2024 年 5 月 11 日(土)～12 日(日) 1 泊 2 日
- \*場 所：檜洞丸 (1,601m)、 ※大室山(1,587m) は天候の影響で中止
- \*参加者：萩原みか、塚越和子、松尾渡、土田利恵子、吉田湖恵、吉田由美、  
平本真二郎、平本美恵子、高倉洋一(SL)、朝井紀久子(CL) 計 11 名
- \*天 候：[5/11] 晴れ、10～18℃、そよ風程度。15 時頃より雲が上がってくる。  
[5/12] 朝気温 6℃、風と霧。視界あるが展望なし。稜線は風速 10m 予報。
- \*行 程：西丹沢ビジターセンターへ各自移動 (①電車+路線バス ②自家用車 ③バイク)
- 5/11(土) 11:00 西丹沢ビジターセンター バス停 11:07 → 12:07 ゴーラ沢出合 12:17 →  
(ツツジ新道) →13:12 展望園地 13:32 →15:15 檜洞丸 山頂 15:30 →  
15:35 青ヶ岳山荘(泊) (山行時間 約 4 時間 30 分(休憩込)、標高差 1,044m)
- 5/12(日) ※天候により下記の通り予定変更
- 予定 青ヶ岳山荘 6:00→檜洞丸→犬越路→大室山→加入道山→白石峠→用木沢出合→  
16:20 西丹沢ビジターセンター バス停 (下山) ※バス時刻：17:05  
(山行時間 約 9 時間 (休憩込)、標高差 1,058m)
- 実施 青ヶ岳山荘 7:30 → 檜洞丸 → テシロノ頭 → 8:35 白ザレノ頭 →

9:07 石棚山 9:13 → ヤブ沢ノ頭 → 板小屋沢ノ頭 → 11:58 大石キャンプ場・箒沢公園橋（下山）。少し歩き、昼食後、箒杉(推定樹齢 2000 年)見学 → 14:00 西丹沢ビクターセンター バス停 着、解散。 ※バス時刻：14:40

(山行時間 約 4 時間 30 分 (休憩込)、標高差 1,044m)

今回の企画は、丹沢の中でも自然の多い西丹沢の 2 峰を 1 泊で巡る、距離や標高差、及び鎖場やザレ場や渡渉など少し難易度のある山行で、花や展望を楽しみに、少し挑戦する気持ちで参加された方も多い企画でした。

初日は天候も良く、1,000m 近い標高差ながらゆっくりと登り、予定通りの時間に檜洞丸登頂と小屋到着。ゴーラ沢出合の渡渉も問題なく、続くツツジ新道は階段も多く整備され登り易い。期待のシロヤシオは、時期が早く、また今年はとりわけ花付きが少ないようで残念。しかしトウゴクミツバツツジの紅紫色や、富士山の展望に、参加者が度々足を止め堪能。檜洞丸からは蛭ヶ岳・丹沢山・塔ノ岳の連なりが明瞭に見られました。5 分下の小屋に到着し着替えや休憩後、夕日を見に再び檜洞丸へ。美しく見えた富士山が、風で上がる霧で隠れ、予報の「翌朝、晴れのち霧」の動きが



少し早まる予感がしました。翌朝早出の計画にて早めに就寝。青ヶ岳山荘は衛生面に配慮され、布団の寝心地は最高でした。しかし夜中に聞こえ出した風の音は徐々に強まる様子でした。

明朝の冷たく強い風と霧、稜線の風速 10m 予報。計画行程は長く下山路の崩れもあり、低体温症と転倒リスクが懸念されました。また、予報より雨が早まると、下山終盤の渡渉にも危険が生じる可能性を考えました。CL と SL で話し合い、大室山への登山を中止し、往路のツツジ新道と並行している、風を避けられる樹林帯が多い石棚山コースでの下山を検討。小屋管理人からは、大室山の手前の犬越路峠まで行って、そこからエスケープルートの隧道を通る事も提案されました。それは、霧が途中は晴れるのではないかと、そうしたら今回 2 日目のハイライトとなる展望が見られるのではないかと、参加者の期待に少しでも応えたい思いが伝わってきました。私も同じ思いでしたが、霧が晴れる見込みは分からず、犬越路までにアップダウンと鎖場もあり、朝の霧と風で参加者の気持ちも萎えている事も考慮し、石棚山コース選択を参加者へ伝え、同意を得て決定しました。

当初の計画よりかなり時間が短縮される為、小屋でゆっくりお薦めコーヒーを飲み歓談して過ごし、7:30 に出発。ツツジ新道に比べ、石



棚山コースはアップダウンはありますが、風は感じず、ゆっくり新緑の中を進みます。途中でシロヤシオが咲いているのを目にし、皆で驚き、コース変更した甲斐も感じました。石混じりの砂地など滑りやすい箇所もあり、途中、転倒する人もいましたが大事なく、適宜休憩をしながら下山しました。12 時少し前にキャンプ場まで下山し、少し歩いて昼食後、参加者が提案して下さった「箒杉（推定樹齢 2,000 年の大樹）」を見学。その後、バス道路を西丹沢ビジターセンターまで歩き、14 時頃到着。車組とはここで解散。バス組は、当初の計画よりも 2 時間半ほど早いバスに乗りし帰路となりました。

今回は 2 日目の檜洞丸から犬越路、大室山への展望も皆と味わいたかったのですが、天候にはかなわず断念となりました。今回の難易度を見込んで、他の山で事前練習をされた方や、今後のステップアップ目的で参加された方もいて、その想いにも応えたかったのですが、皆さんの安全は何より大切であり、また今後に繋げて行きたいと感じます。(CL 朝井紀久子)

#### [ 所感文 ] SL 高倉洋一

西に大きな富士山を見つつ、ブナの木の新緑に包まれて歩く西丹沢の五月を参加者一同堪能したのではないかと思います。それでもコースには渡渉箇所のほか、鎖場、ロープ、鉄梯子もあってそれなりに緊張し、二日目朝は強風にも晒された山行でしたが、CL の朝井さんは当初の計画作りの段階に始まり、山行前の参加者への情報連絡・共有に心を砕き、二日目朝の計画変更決定もうまくマネージされ、大人数のパーティーも皆安心して行動できたと思います。美しい丹沢山塊の眺望とコースの醍醐味、頼れるリーダーに恵まれた二日間でした。

### ■参加者の感想

#### 【土田利恵子】

初日は天気恵まれ気持ちよくつつじ新道を歩くことが出来ました。足下に咲く小さなフデリンドウ、ミツバツチグリなどの名前を知ることが出来さらに楽しくなりました。そして日本一の山、雪解けが進み夏の山に向かう姿が寂しくもありまた登れる楽しみもありと複雑な気持ちになりました。翌日は夜中からの強風が止まずキケンと判断され大室山ではなく下山へのルート変更になりましたが、所々でシロヤシオを見ることが出来「アタリ」のエスケープルートでした。全員で下山出来た事がとても嬉しく思います。今回は下山がキツかったのですが、とても楽しい山行になりました。CL、SL のお二人ありがとうございました。

#### 【松尾 渡】

今回の檜洞丸登山は一泊二日(5月11日～12日)で、初日つつじ新道登山口からゴーラ沢出合の渡渉を難なく越え、展望台近くで頂上に雪を抱える富士山をゆっくり眺め、その後檜洞丸頂上を目指す。好天に恵まれ、登山道途中で目にするブナの若葉にあふれた新緑が目優しい。シロヤシオの花も咲き始めウグイスの鳴き声が長く耳に残る。初日の歩行距離 5km、累積標高差 1280m で予定通り 15 時半過ぎに山小屋に到着する。二日目は朝早く山小屋を出発予定であったが、風速 10m、霞がかかった天気からは当初の登山見直しを余儀なくされ、7 時半に出発してシロの頭経由で石棚山を経て板小屋沢の頭→12 時前に箒沢(ほうきさわ)公園橋に到着する。下山途中には、鉄鎖、ハシゴ、ロープでの通過等リスクのある山下りを楽しめた。箒沢で休憩後、少し歩いて国指定天然記念物と

して有名な「箒杉(推定 2000 年を経過)」を見学する。屋久島の「縄文杉」には及ばないかもしれないが、全国的にはその次の順位に値する杉ではないだろうか。天候により当初計画登山はできなかったが、適切な判断により二日目は石棚山コース下山及び見学を楽しめた。

## 【山行報告】 5 月 月例山行「大菩薩嶺」

山行委員 大野国光

\*日程：2024 年 5 月 25 日（土）

\*場所：大菩薩嶺（2,057m）

\*参加者：稲越 CL、大野 SL、塚越、平本（美）、平本（真）、北條 6 名

\*集合：甲州市裂石駐車場（丸川峠入口）

\*天候：曇り時々晴れ

\*行程：7:30 丸川峠入口→9:30 丸川峠→11:30 大菩薩嶺→11:40 雷岩→12:35 大菩薩峠  
→13:20 石丸峠→14:40 上日川峠→16:10 千石茶屋→16:20 裂石・丸川峠入口駐車場

\*歩行時間：約 8 時間 5 0 分（休憩込み）

\*装備：日帰り登山装備 雨具、昼食、行動食、非常食、飲料水、救急用品、防寒着等

\*行程概要：

大菩薩嶺は、首都圏からも近く初級者から登れる人気の百名山で、山頂付近、雷岩付近では多くの登山者で賑わっていました。最もポピュラーなコースは、1,600m 付近まで車で上がれる上日川峠から唐松尾根を登る周回コースですが、今回の支部山行は、裂石・丸川峠入口（1,030m）からスタートし、丸川峠を経由して大菩薩嶺、大菩薩峠、石丸峠、上日川峠を経て裂石に戻る周回コース約 15km の行程を辿りました。



集合時間の 7 時半には、皆さん準備万端で即登山開始となりました。天気は曇りでさわやかな涼風を受け、新緑の中、心地よくややかなだらかな歩行から入りました。ダム 2 つ過ぎたあたりから急登に入り丸川峠を目指します。杉、檜のない広葉樹林帯の中、新緑と涼風が実に心地よく急登を忘れさせてくれます。登山道も良く整備されていて、すれ違う登山者もほとんどなく快適に標高を上げていきます。傾斜がゆるやかになったからそろそろ峠かと思うと、登山道以外もよく整備されているところに着きました。丸川峠です。売店（丸川荘）がありますがあいにく休業中で、暖かいコーヒーを期待しましたが残念でした。

丸川荘は休業中ですがトイレは借用できます。



小休止後、目的地大菩薩嶺を目指します。ゆるやかな登りから、気持ちの良い稜線歩きとなります。薄日が射してきましたが、暑くもなく気持ちの良い稜線歩きです。11:30 予定通り大菩薩嶺に到着、鹿がお迎えしてくれました。木立に囲まれて眺めは良くありません。記念写真撮影後、次の目的地雷岩に向かいます。程なく右側に視界が開け雷岩に到着、薄っすら南アルプスを望むことが出来ました。晴れ間はのぞきましたが、残念ながら富士山は望めませんでした。雷岩付近から大菩薩峠にかけては心地よい稜線歩きで、老若男女多くの登山者であふれていました。3 歳くらいの子連れの親子から、杖をついた 80 歳過ぎと思われるおばあちゃんに付き添ったご家族までが登っておられました。改めて人気の山なんだなと思いました。



大菩薩峠から石丸峠にかけては、登山者がぐっと減り、ガスの中神秘的な歩行を楽しめました。石丸峠を右手に折れて、笹原から樹林帯を下って、上日川峠に到着します。上日川峠は、甲斐大和駅からのバスもあり、多くの登山者で賑わっていました。小休止後、林道を横切って再び樹林帯に入り 500m ほど下って千石茶屋に到着。小休止後 10 分ほどで、裂石駐車場に皆さん無事到着しました。

今回の丸川峠入口からのコースは、登山道も良く整備されていて、登山者も少なく快適に急登を楽しむことが出来ます。新緑のこの時期、紅葉の時期が特にお勧めかと思います。自分のレベルに合わせて、トレーニングも含めて、皆が楽しめる山かと思います。2 度 3 度と登っても、その都度楽しめる山と思います。  
(記)大野

#### ■参加者の感想

**【塚越和子】** 大変なコースと聞いていましたが、夏の為のトレーニングと思い勇気を出して参加しました。登山口から登りが始まり、人のすれ違いもなく静かな山道を楽しめました。雷岩近辺では急に、街中のような人がいましたが、それ以降は、これぞ大菩薩嶺！という雰囲気をも十分に味わうことが出来て幸せでした。富士山も南アルプスも、見せてはもらえませんでした。歩いて楽しいと、改めて思った山行でした。

**【北條健市】** 初めての支部山行が、大菩薩嶺でした。天候は曇りがちでしたが、風薫る中での登山は、大変心地よく、一步一步が心と体を鍛え上げてくれました。タフでロングな登山コースでし

た。丸川峠から大菩薩嶺、そして石丸峠を経て上日川峠、千石茶屋と。丸川峠を通過するコースは初めてでしたが、また来たいと思わせるようなコースでした。予定通り夕方に、無事に下山できたのも、稲越 CL を始めとした、参加者皆様のご指導のたまものと、深く感謝いたしております。これまでの山行は、ソロが多かったのですが、今後はいろいろな支部山行に、参加させていただきたいと期待しております。引き続き、よろしく願いいたします。

## 【山行報告】春季 清掃登山「大高取山」

社会貢献委員長 若林優子

実施日：2024年5月11日(土) 晴れ

参加人数：9名 浅田稔、奥田通孝、小島千代美、齋藤哲也、那須朋美、東 洋子、吉田寛治、若林優子、渡辺徹也(五十音順)

コース：9:40 越生駅～10:00 高取山～10:35 西高取山～11:50 大高取山～12:40 幕岩展望台  
～13:13 だいこうじ跡～13:50 桂木観音～14:55 虚空蔵尊～15:30 越生駅

春の清掃登山を実施いたしました。お忙しいところ、8名の方が参加してくださいました。

前年度の夏の清掃登山同様に、今回の春の清掃登山も(一社)埼玉県山岳・スポーツクライミング協会様が開催している「令和6年度・クリーン登山」の取り組みに賛同、参加したものです。

昨年、同じ大高取山にて実施した際には結構なゴミの量が落ちていたため、今回もそこそこの量を見込んでいたのですが、嬉しいことに予想が外れ、あまりゴミが落ちておりませんでした。ゴミもお菓子やお弁当の包装、テープの破片や帽子などの忘れ物など、うっかり落としてしまったようなものばかりで、ポイ捨て、不法投棄はないよう見受けられました。そんな些細なゴミも皆さんの見事なトングさばきによって素早く回収され、山がたちまちきれいになりました。

山がきれいになるばかりでなく、すれ違う他の登山グループの皆様にご挨拶の言葉をいただいたり、活動に興味をもっていたり、と目的以上の成果を得られた山行でした。そして終わった後の満足感とは一味違った、大変すがすがしく晴々としたものでした。

ちなみに、清掃登山に参加すると他の山行でも落ちているゴミが気になってしまうとのご意見をちらほらいただきました。大変ありがたいお褒めの言葉と受け取っております。



同好会 平日山行倶楽部 3月～6月 報告

伊豆大島・三原山／赤城山・鍋割山

評議員 高橋 努

3月 伊豆大島・三原山 (3月7日～8日)

今山 健 記

前日欠航だった高速ジェット船は、天候回復し、竹芝栈橋 8:35 発、大島の岡田港に 10:40 着、11:00 発の三原山登山バスで三原山頂口 11:25 着。すぐ近くの御神火茶屋や木星号慰霊碑 (1952.4.9 墜落) がある山頂口展望台 (573m) で写真を撮り三原山登山に出発する。

外輪山から少し下りたカルデラの中で、山頂を目指して舗装された山頂遊歩道を歩く。標高 600m 付近から、つづら折りの急坂を登り、三原神社 (680m) から火口一周歩道を反時計回りに歩き、近くの展望台兼避難小屋 (トイレ) に到着。屋上で写真を撮り、強風の中での昼食の後、再出発し火口一周に戻る。舗装は途切れ、スコリアという火山噴出物の砂利道を強風と闘いながら登る。路側の湯気が出ているところを通り、左下東方向の裏砂漠や奥山砂漠を眺めながら、御鉢めぐりの最高地点・剣ヶ峰 (749m) に到着、噴煙あがる火口に沿って歩く。



《地層大切断面》

少し歩き、大島観光ホテルの分岐点 (680m) に到達、ホテルへの遊歩道を歩く。最初は下り坂で、歩行速度もあがり、早いグループは先方に、私の後には二人、中間には私一人、3 グループに分かれて歩くことになった。そのうち、カルデラの緩やかな遊歩道となり、砂漠の中、溶岩の中、いろいろに変化する植生の中などを、前後のグループを気にしながら一人で歩いた。

ホテルに近づいた木立の中で、小動物が動くのを見たが、それはキョンというシカ科の小動物で、キョン捜索隊の人々にも会った。ゴールの大島温泉ホテル (491m) には、予定通り 15:00 に全員到着、天候にも恵まれた山行だった。

ホテルでは三原山の展望良好な露天風呂に入り、夕食は名物の椿油のフォンデュもあり、談話も弾み、楽しい会食だった。

2 日目は、波浮の港展望台から、波浮の港を眺め、昔は火口湖だったが、1800 年頃港口を人工で開削し、船が出入りできるようにしたので多くの人々が来島するようになり、大島の第一の町になったことなど、現地の案内板で知ることができた。午後は大島公園に行き椿園や椿祭りを見学した。



《三原山山頂 (後列中央: 筆者)》

帰りは予定通り、岡田港 15:30 発、竹芝栈橋 17:35 着で解散となった。

私にとって今回の山行は 92 歳になり体調も低下、高橋さんに許可をいただいていたので参加でした。同行の皆さんにはすっかりお世話になったようでした。念願のべっこう鮨も食べることができました。

また、大島は東京都でありながら、国土地理院 25000 分の 1 地形図に「砂漠」の地名が記載されている唯一の場所であり、一度は歩いてみたい場所でした。なお、「山と溪谷」4 月号に今回歩いた三原山の同じコースが地図付きで掲載されています。

(参加者：今山健、吉田寛治、野口勝志、町田美春、萩原みか、吉田湖恵、東洋子、宮崎則子、清登緑郎、高橋努)

#### 4 月 赤城山・鍋割山(4 月 25 日)

行方真由美 記

初めて平日山行へ参加させていただきました。参加者の最も多い山行だったようです。雨上がりの翌日で凜とした涼しさと澄んだ空気が気持ち良い山行の朝でした。

渋滞があり少し集合が遅れたものの、平日でも姫百合駐車場は、ほぼ満車でした。

高橋リーダーを先頭にゆっくりと歩き始めると途中にはボランティアの森と書かれた看板がありました。そのおかげか登山道の脇の木々には札がついているものがあり、木の名前がカタカナ、漢字で書かれていました。漢字で表現されると木へのイメージが湧きますね。

お目当てのアカヤシオの花は、まだ芽吹いていない木々の間に目立ち、その存在感は青空に映えてピンク色がとても綺麗でした。カタクリの花も見られたり、途中の稜線からの残雪の山々の景色も素晴らしかったです。

お昼は山頂から前橋市内の若葉の優しい景色を眺めながらの昼食タイム、お天気に恵まれて春の心地よい風と景色を楽しめた山行でした。参加された皆様楽しい時間をありがとうございました。

(参加者：小島千代美、米山英三、立原由子、橋本久子、渡邊嘉也、吉田寛治、坂倉理恵、浅田稔、野口勝志、行方真由美、吉田湖恵、清登緑郎、萩原みか、塚越和子、町田美春、水野千秋、宮崎稔、高橋努)



鍋割山頂



赤城ブルーに映えるアカヤシオ

## 個人山行 【北アルプス遠見尾根 雪上訓練】

山行委員 高倉洋一

\*実施日：2024年4月29日～30日

\*場所：早大岳友会山小舎（長野県大町市）～ 白馬五竜 遠見尾根

### 【所感】

早大岳友会山小舎を利用した平川コーチによる2日間の雪上訓練・ロープワーク訓練に参加した。最新で正しい知識による実践的な訓練で、同時に埼玉やま塾スタッフとして塾生に対する接し方も学べた。

### 1日目（遠見尾根雪面にて）

- ① 目的地に到着したら、先ずザックを下す場所を作る。  
ピッケルで雪を横に30cmほど掻き出し、足で平らに踏み固める。ザックを下すと同時にショルダーベルトにピッケルを通して雪面に差し込み、ザックを固定する。
- ② アイゼンを着けず、比較的傾斜の緩い場所で昇り降り。斜登高、トラバース、斜下降。リフト乗り場終点付近まで移動し、急斜面にて直登・直下降を練習。
  1. 雪面に靴を蹴り込むことによって足場（ステップ）を作る。
  2. 直登は膝を支点にして爪先を振り子のように前に蹴り出し、雪面を削ってステップを作り、足に体重移動して立ち上がる。何度も蹴らずに登れるようにする。
  3. 直下降は体重を利用し、かかとを一気に打ち下ろす。胸を張る。怖がって腰が引けると、うまく下降できない。
  4. 登ってから体の向きを変え、降りようとする時バランスを崩し、滑り落ちる危険があるため、ピッケルを雪に刺して体勢を変える。
  5. 直登・直下降の際、ピッケルはブレードが胸（鎖骨の下辺り）に付け、ピックは前に向けて持つ。
- ③ 私は、直登では時々足を滑らせ（一発で強く蹴り込めていない）、直下降では足が下に行かず、僅かずつしか降りられない状況であった。参加者は互いにスマホで直登・直下降の姿を撮影。その動画を見たところ、私は登り降りともに前かがみの酷い姿勢であることに気付かされた。
- ④ アイゼンを着けて昇り降りし、アイゼンなしで昇り降りした時との違いを体感した。
  1. アイゼンを着けて歩行する際、両足はこぶし三つ分空ける。
  2. アイゼンを着けると、それまで苦しんでいた直下降が楽に出来るように感じた矢先、平川氏より「アイゼンを着けて楽に歩行できたと感じても、正しく雪上を歩けたことにはならない。アイゼンを着けずに歩行できる基礎を身に付けることが重要」との指摘あり、正に凶星をつかれた。
- ⑤ 滑落停止訓練を行った。参加者皆、滑落停止訓練を楽しんでいるようであった。
  1. 滑落時、両足は地面に接しないよう上げる。
  2. ブレードを胸に押し当て、左手でシャフトを引いてピックを雪面に刺して停止する。  
(ピックを確実に雪面に刺せておらず、スパイクが雪面に当たったことにより制動された例もあった)

⑥ その他、下記諸点指導頂いた。

1. ピッケルとリーシュの連結の仕方（スリングとカラビナの使用方法）。
2. ピッケルのアルペン差し。
3. （登りにはピックを前に向け、下る時は後ろに向けるなどと言われているが）昇り降り時のピッケルの向きはどちらでもよく、要は転倒した時に素早く確実にピックを雪面に刺せる態勢にする。

2 日目（悪天のため山小舎屋内にて）

ロープワークの実践、ツェルトの張り方、エマージェンシー装備品の解説（詳細は省略）。

（参加者：平川コーチ、山口サブ、大野、平本(真)、平本(美)、水野、小林、天池、塚越、高倉）



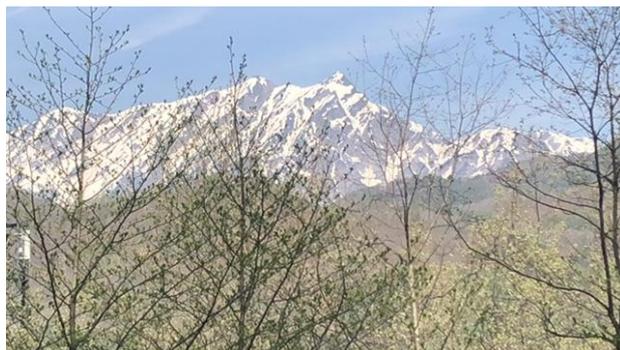
遠見尾根雪上訓練



山小舎屋内講習



懇親会



山小舎から鹿島槍を望む

### 埼玉支部【スキー同好会】のご案内

スキー同好会会長 古川史典

スキー同好会は「会員相互の親睦等と埼玉支部の活性化」を目的として、平成 27 年（2015）11 月第 8 回支部委員会の審議において承認され、翌年平成 28 年度（2016）から「登る方はそろそろかな？でも下る方はまだまだ！！若い時したよ“”今もしているよ“”etc」を合言葉に活動を開始し 9 年目になります。

現在会員は、17 名でゲレンデスキーをメインに、2 月下旬から 3 月上旬に日帰りスキー会（主にホワイトワールド尾瀬岩鞍）と宿泊スキー会（志賀高原、白馬、雫石スキー場）を実施していまし

たが、令和 5 年度は日帰りスキー会のみの実施となりました。

特にスキー技術を教えることもありません。もしこの同好会でスキーを上達したいと思えばスキー学校での受講をお勧めしております。今年度も 2 名の女性の方が入会されましたが、お二人はかなり前にスキーをしたとの事で、事前にスキー学校に入校し準備されました。又日帰りスキー会の当日スキー学校に入校し基本や思い出しをしていただいた方もおります。

スキー同好会の会費・スキー会への参加費は必要ありませんが、費用として、スキー学校受講料・公共交通機関利用と自車利用の交通費は個人負担、車両同乗の場合は、車両提供者へ謝礼 1000 円と車両提供者からあるガソリン代高速代を乗車人数で割った額を車両提供者にお支払い下さい。宿泊スキー会の場合は、宿泊費・懇親会費等はプラス割り勘実費となります。

当同好会の活動報告は、支部 HP に掲載しておりますのでご覧いただき、せっかくの機会ですので是非一緒にスキーを楽しみましょう。

その他質問・疑問点等あればお問合せ下さい。お待ちしております。

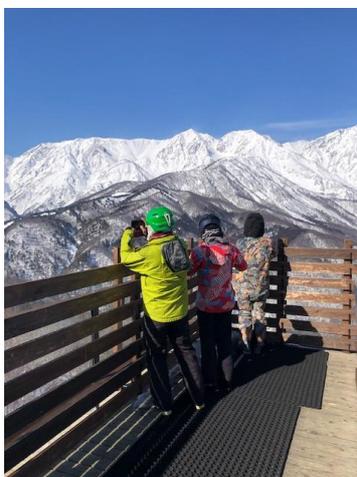
以上

リーダー (8317) 古川史典

古川連絡先→電話 090-3219-0860 アドレス [f8008pk@rock.odn.ne.jp](mailto:f8008pk@rock.odn.ne.jp)



尾瀬岩鞍



白馬



尾瀬岩鞍



志賀高原



尾瀬岩鞍

**【読図】 「市街地や低山での読図山行」 報告****評議員 松本敏夫**

山行委員会の企画として「市街地や低山での読図山行」を、好天に恵まれた令和 6 年 5 月 18 日(土)に、外秩父山城の低山である毛呂山町の石尊山と竜ヶ谷山で実施しました。

参加者は、L 松本敏夫、磯崎佳奈、坂倉理恵、浅田 稔、国崎 智、宮崎則子、吉田寛治、若林優子の 8 名で、仕事が現役バリバリの世代から半世紀以上の山歴を有する人たちです。

コースタイムは、JR 八高線毛呂駅に 9 時 30 分に集合、毛呂駅 (9:40 発) ~長栄寺 (10:05 - 10:20、見学を含む) ~石尊山 (10:55 - 11:20) ~大行寺地藏尊 (12:10) ~雷電神社入口 (12:20) ~竜ヶ谷山 (12:50 - 13:40、昼食) ~毛呂駅 (14:20 着)

十年以前の読図山行では、国土地理院の 2 万 5 千分の 1 地形図と磁石を頼りに、周囲の地形を見回しながら、現在地の確認とこれから進む尾根、谷、巻き道などを確認していました。しかし、最近ではスマホ用 GPS アプリの YAMAP やジオグラフィカなどを利用することで、地形の確認(遠方の山々の確認は、国土地理院の地形図を併用)はもちろん、標高や時刻のナビゲーションもしてくれるという優れモノが有益です。今回の「市街地や低山での読図山行」は主として GPS アプリを利用して、現在地の確認とこれから進む道路、建物、山の位置などを GPS 情報と併せて見ながら市街地を歩き、登山コースを確認しました。また、読図山行を楽しみ、参加者の懇親を深めことも可能でしたが、出来るだけ参加者各自が GPS アプリに慣れることが目的の一つです。

石尊山の登山口は、長栄寺入口の車道の左側に道標「不動堂 - 石尊山」があり、2 万 5 千分の 1 地形図及びスマホアプリの位置情報も分かりやすい。登山口のコンクリートの石段のすぐ上に不動尊の絵が掲げられた不動堂があります。杉の樹林に覆われた尾根道は明確で、後半はゴルフ場のフェンスの横を通り、前方が開けると石尊山の山頂(標高 224.9m)につきます。道標「石尊山、三角点 - 毛呂病院」及び「富士仙元大菩薩」の石碑があります。南側にあるゴルフ場のフェンスを開けて刈り払われた空き地に出ると、解放感のある展望が素晴らしく、三等三角点が設置されています。下山は毛呂病院方面に降り、右側にクサリが張られた急な坂を慎重に下ると、道標「阿諏訪 - 毛呂病院」の分岐があります。竜ヶ谷山への近道と思われる「阿諏訪」への明確な道を下ると、杉の植林帯の道となり、最後は踏み跡に変わりますが、民家の前の車道にでます。大行寺地藏尊を左折して阿諏訪川を渡り、雷電神社入口までは車道です。竜ヶ谷山へは雷電神社入口からゴルフ場の中を通り、山頂に至る道は道標が完備されていました。山頂(標高 203m)は竜ヶ谷城跡(埼玉県選定重要遺跡)で要害山とも呼ばれています。また、雷電神社や稲荷神社などがある広場になっていて、越生方面の樹木が刈り払われていて、展望は良好です。

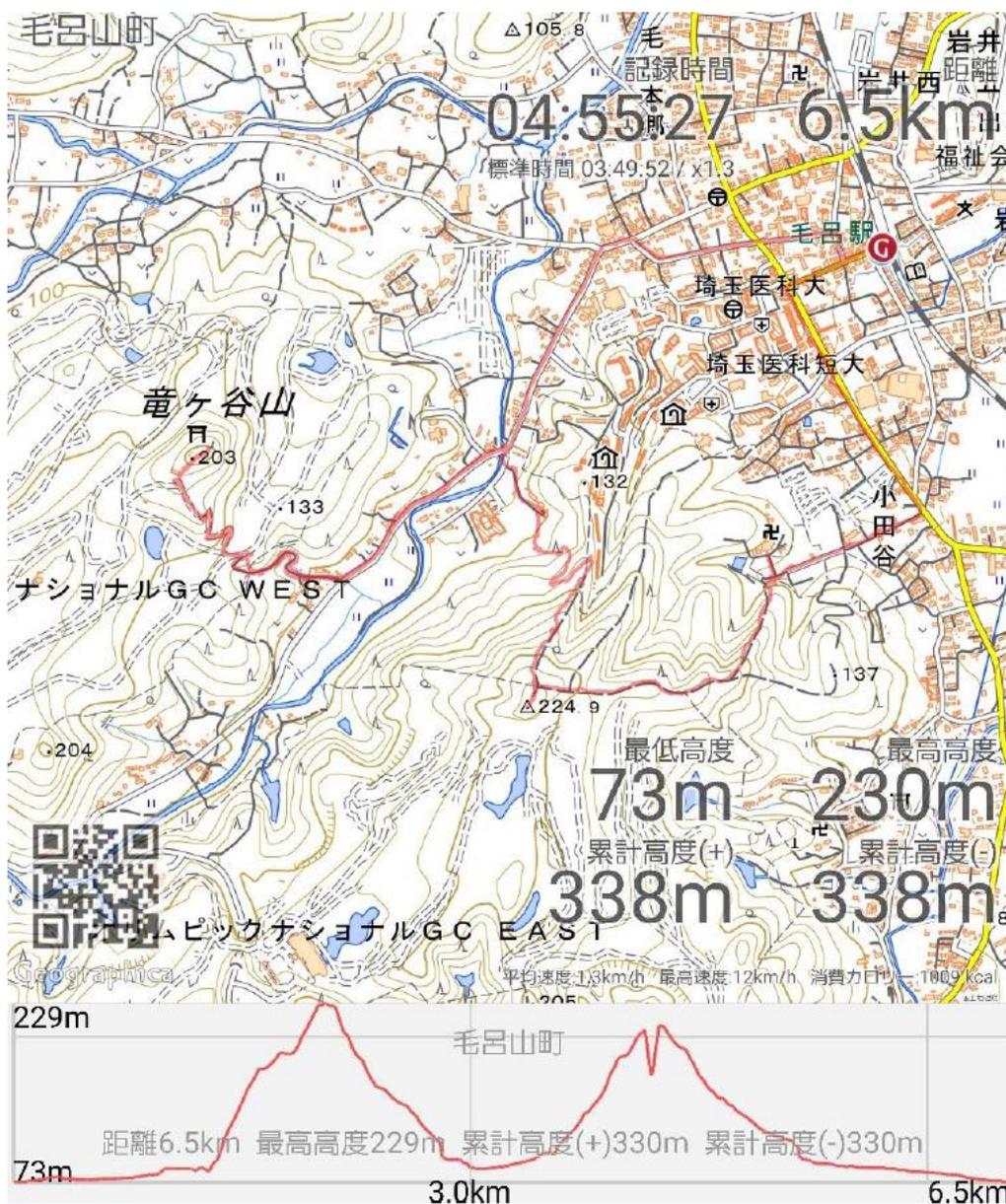
また、別のスマホアプリを起動し、山に向けるだけで山の名前や標高が表示できる「AR 山ナビ」を試してみたが、遠方の高い山々はバーチャルで山名が表示されますが、手前の数百メートルの低山は表示されず、低山には不向きなのか、利用に慣れが必要と思われます。



石尊山山頂



竜ヶ谷山山頂



ジオグラフィカ GPS データ

## 《参加者の感想》

【国崎 智】5月18日実施の読図山行に初めて参加させて頂きました。昨年、山岳会の「埼玉やま塾」を終了した私にとっては最初の山行であり、また、山道での迷子に不安を持つ私には最適な山行でした。従来の2万5千分の1の地形図とコンパスを使っでの位置確認では、縮尺が小さすぎて実務上使えず、今流行りのアプリ（YAMAPやジオグラフィカ）の方が、位置情報の取得の許可設定さえしておけば、山行の軌跡も表示されて非常に便利な事を実感しました。ただ、スマホの電池切れや故障で使えなかったり、電波を拾えない場所だったりする時は、やはり最後の手段として地図とコンパスで自分の位置と目標地の方角を知る方法を、事前に習得しておくべきと思います。今回の山行では、松本Lから登山路の入り口や要所に設置された道標・石碑等の解説をして頂いたので、地域の歴史や風習等にも触れて勉強になり、体力的にも無理のない楽しい山行でありました。来年もまた参加させて頂きたいと思っていますので、開催を楽しみにしています。有難うございました。

## 【自然保護委員会】「北本自然公園観察会と講義」に参加して

会員 小原茂延

「北本自然観察公園観察会」は3月30日(土)すばらしい好天に恵まれ、サクラも開花から3、4分咲きとなる春爛漫のもと開催された。参加者は20名(吉田、龍、右川、高橋、清登、林、山崎、稲越、東、渡邊、大室、平井、萩原、今山、宮崎、吉田由、吉田湖、磯崎、宮崎則、小原(順不同、敬称略)である。

北本自然公園観察会というと、2016年に自然保護委員会が観察会の指導員養成の目的で高野徹講師(今回も同)のレクチャーを受けたことがあった。

今回は、先ず講義室でリーダーの渡邊泰子自然保護副委員長による開催要領の説明があり、続いて公園の自然学習指導員チーフの高野徹氏から「生物多様性」についての講義があった。1992年のリオデジャネイロで開催の地球サミットの中で、生物多様性条約の創設が宣言された由で、30年近くを経過しているようだ。北本自然観察公園のコンセプトもそれを基底に置いて運営していることが分かる。その後、園内の観察に入り、池のニホンアカガエルの卵塊保護のこと、ミクリが少し伸びている状態や、ミズキの枝の付き方から樹齢が分かる話などの説明を受け、斜面に愛らしいウグイスカグラの花株をいくつか楽しんで進む。まだヨシが伸びない浅い池にあるフトイやヨシ、アシの話なども教えて頂く。

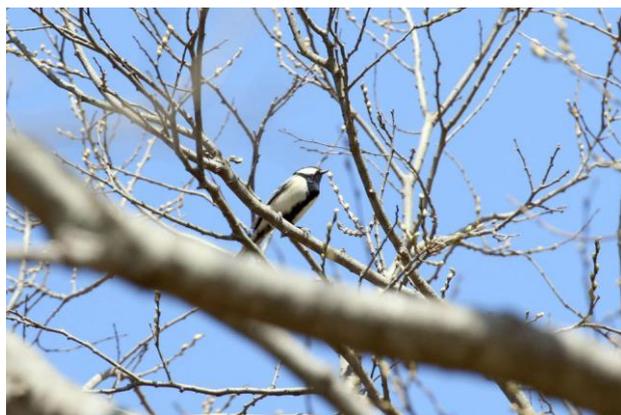
そこかしこでスマレが咲いている。ここではタチツボスマレ、マルバスマレ、コスミレ、ノジスマレなどの特徴や見分けの上で有茎・無茎についての説明を受けた。また芽吹きの新ダレヤナギが外来種であること。タンポポの関東、西洋、交雑種なども懇切に実物を示しながらの解説で正しい知識を得ることができた。

オオイヌノフグリとナズナの群生、菜の花は総称であってアブラナ科の種類など、中々人に聞けない基本に始まり、初めて聴くようなミツバツチグリ(三葉土栗)もキジムシロの仲間と聞き、何となく黄色い花を思い浮かべる。クヌギの団栗の成り方、ヒサカキの花の匂いがまるで沢庵のようで吃驚させられた。その他の草木についての説明も枚挙に暇がない。汗をかいて自然学習センターに戻る頃にはサクラが一気に開花して3、4分咲きとなっていた。

午後からは、支部の自然保護委員 6 名による各自テーマの講義があった。  
 始めに渡邊泰子副委員長が「気になる樹になるイチゴ」でクサイチゴ・ヘビイチゴ・ニガイチゴ・モミジイチゴ・フユイチゴなどの草本、木本の違い、味などを発表。続いて平井委員の生物多様性、大麻生の草焼き、山を綺麗にすることが川の浄化に繋がること。山崎委員は地元越谷の農作業と民俗行事であるオビシャ(御歩射)、虫追いについて。大室委員は南極越冬時の経験から、露岩帯の地衣類、蘚苔類の写真、オーロラ観測用小型ロケットの話。次いで稲越委員より後立山連峰他の山岳風景と高山植物及びライチョウなどの小動物写真説明、最後に龍委員より「木の根っこ」、菌根のタイプなど少し高度な話であった。全体に、旧来のシンポジウムから新しい発表スタイルへと積極的な姿勢を感じた。ただ時間の関係で駆け足となったのは惜しまれるが、有意義な観察会・講義を受けることができ、得るところ大であった。



高野徹氏(講師)の説明を聞く



シジュウカラ (スズメ目、シジュウカラ科)



ミナミメダカ (絶滅危惧Ⅱ類 (VU))



ノジスミレ (無茎種)



ソメイヨシノの花の蜜を吸う  
 セイヨウミツバチ、後足には花粉団子



参加者 集合写真

**【自然保護委員会】「秩父森づくり」に参加して**  
**会員 平井 孝**

4月27日(土)、晩春の過ごしやすい陽気の中、「ちちぶ里森の会」の定例の森づくり作業活動に参加してまいりました。集合は西武秩父駅前でしたが、当日武甲山の麓の羊山公園ではシバザクラ祭りが開催されていたので、駅前は大混雑。それを横目で見ながら日本山岳会埼玉支部自然保護委員5名、里森の会メンバー8名の計13名は、車で分乗して、いざ久那小屋へ向かいました。久那小屋に着いてすぐに自己紹介し、当日の作業予定の打ち合わせがありました。

安全確保のため、各自ヘルメットと手袋を着用し、午前中は、雨乞山の竹藪徐伐作業でした。始めに手ノコや鉋の扱い方を教わり、腕の太さ位の竹の伐採を行いました。1本の竹を切るだけでも大分時間を要し、思ったよりハードな作業でしたが、切った後は日の光が差し込み、自然の息吹を感じました。午前中の作業が終わり、小屋に戻る頃には、程よい疲れと達成感を覚えました。

小屋では、昼食にと里森の会の女性が、参加者のために現地で採れた多くの山菜を、てんぷらやあえ物でもてなしてくださいました。特にこの時期にしか味わえない新芽の天ぷらは絶品でした。「えっ？こんな物まで食べられるの？」と初めて食す食材にも一同興味津々で味わっていました。

午後はシイタケのホダ木棚組み作りを見学しながら、小屋の近くにあるホテルの沢やトウキョウサンショウウオの谷の視察を行い、生き物の保全に深く関わっていることも、森づくりには大切なことだと実感しました。そして再び小屋に戻って、作業や自然観察の成果や感想をお互いに発表し合って、1日の森づくり作業活動を無事に終わりました。

予定していた花炭焼は体験できませんでしたが、1日森づくりに参加して貴重な経験をさせていただきました。これを機に里森の会と連携しながら、地元埼玉の自然保護や保全活動の促進になれば幸いです。「ちちぶ里森の会」の皆様、ありがとうございました。



「彩の山研究会」便り

会員 小原茂延

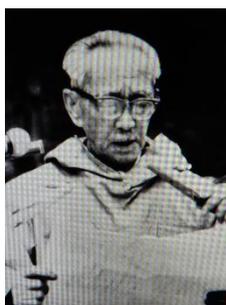
「彩の山研究会」便り

■ 山岳文化の放談会、3年目に入る

コロナで騒がれていた 2022 年 4 月に仲間を誘って立ち上げた「彩の山研究会」も、この 4 月で 3 年目に入りました。来年には創立 120 周年の節目となる日本山岳会の「設立主旨書」は、登山の意義を高らかに謳うと共に、先ず欧州の「アルパインジャーナル」に倣い機関雑誌「山岳」を発刊し、山岳に対する考察や記事を掲載して山岳趣味と知識の啓発に努めるとの発起人一同の声明が掲げられています。この精神こそ日本山岳会たる所以であり、後に続いた先人が更に山岳文化を築いて来ました。とりわけ松方三郎元会長、松田雄一元副会長、平山善吉元会長といった方々はその啓発・指導が顕著だったと思います。「彩の山研究会々報『秩父嶺』」は上記先人の教えに則り、小規模ながら広く登山史・文学・博物関係についての放談会内容を掲載しています。目標は登山文化意識の向上と情報交換です。したがってメンバー相互の話題提供を基本としています。

■ 尾崎喜八選集「私の心の山」について ヤマケイ文庫クラシックス 山と溪谷社 2024.3 初版

もう 10 年以上前ですが、神保町の古書店で尾崎喜八の本について聞いたところ、「もう尾崎喜八の本を読む人も殆ど居なくなった…」と言われて慨嘆したものでした。ところがそれから数年、紹介があつて蠟梅忌に出席した際に、小生より大分若い方が「山の絵本」の朋文堂版(覆刻)を抱えて、さも宝物を得たように誇らしげにしていた光景を見て嬉しい思いでした。



尾崎喜八(1892-1974)東京生まれ。詩人。1928 年河田掉(みき)の著書に触れ、「霧の旅会」に加わって登山をはじめ、木暮理太郎、武田久吉らの知遇を得る。多数の詩集、散文集「山の絵本」「碧い遠方」他、訳書に「一登山家の思い出」エミール・ジャベルなど。

戦後、信州の富士見に 7 年程居住、榎有恒の後を受け JAC 信濃支部長を 2 年有余務め、ウェストン祭での講演、自作詩の朗読は約 20 年に及んだ。山の文芸誌「アルプ」の命名者であり、顧問を務めた。

選集中『雲と草原』に収載の「灰のクリスマス」に、或る年の 8 月に雑誌「山」(梓書房)が主催した五日間の講習会のことを記しているが、これは当時の「ヒュッテ霧ヶ峰」(長尾宏也経営)で開催されたもの。

布川欣一の「明解日本登山史」(ヤマケイ新書)によれば 1935 年、後に「空前絶後」と評される「山の文化イベント」で「山の會」と称したその内容が示されている。木暮理太郎の「登山談義」、柳田國男「狩と山の神」、武田久吉「山の草と木」、藤原咲平「山の気象」、ほかに受講者として参加の尾崎喜八が「山と芸術」、中西悟堂が「野鳥の話」を講じたという。

強清水の「旧ヒュッテ霧ヶ峰」はこの講習会の翌 1936 年焼失している。

なお、尾崎の山の師である前記の河田掉は、「奥武蔵研究会」の創立者で「一日二日山の旅」などの著者として知られる。

## 「彩の山研究会」最近のトピックス

### ■ 「坊がつる讃歌」の逸話を語る



今山健会員は福岡県出身で、92 歳のご高齢ながら最近も三原山に登山されるなど矍鑠たる方です。「彩の山研究会」の発足時「埼玉の山 310 山(サイたま〇)」を率先して調査提唱、作成にご尽力頂きました。この 3 月に「坊がつる讃歌」の作詞者の一人である草野一人氏が大学時代の同期だったとのことから、貴重な話題と資料をご提供頂きました。元歌は広島高等師範学校の「山男の歌」であったが、1952 年夏、九州大学の学生 3 人が坊がつるの「あせび小屋」で沈殿していた時、梅木秀徳さんがロズさんだ歌を「良い歌じゃないか、」歌詞を変えて九重に合うようにしてみよう」と他の者らがいい生まれた由で、他の二人は松本征夫(元 JAC 支部長)、草野



一人両氏でした。その後、阿蘇での集まりに招かれた芹洋子のレコード化で一躍全国に知れ渡ったのは周知のこと。当初賛歌としたのは、元々は替え歌ということで「替」の文字にちよっぴり「ハ」を加えて「賛」を使ったわけという。ただ、賛は下が貝なのでやや解せない気はします。

左記写真、左より松本征夫、草野一人、梅木秀徳、立石敏雄氏(当時九州山小屋の会々長)

大型連休の 5 月第 1 週に銀座アートホールで開催された「クラッセ・ド・タケ展」に草野一人氏は油彩 8 点を出品していましたが、国鉄(現 JR)のエンジニアとしての傍ら絵画に精進した作品は、坊がつるのミヤマキリシマ咲く題材の他、「エンジェルの滝」など旅を好まれたようです。自画像については今山氏いわく「似ていない」には微苦笑を禁じ得ないが、九十路を超えて素晴らしいお二人に拍手です。



■ 「彩の山研究会」は平日、日中の開催なので参加が難しい方に、メール会員になって戴いて山岳文化の情報交換をしています。詳しい事は下記連絡先までお願いします。

「彩の山研究会」 連絡先 [0180ltmi@jcom.zaq.ne.jp](mailto:0180ltmi@jcom.zaq.ne.jp) 小原茂延

**第 37 回日本山岳会全国支部懇談会（神奈川）に参加して****評議員 松本敏夫**

日本山岳会神奈川支部主管の第 37 回全国支部懇談会が令和 6 年 5 月 25 日（土）～26 日（日）、グランドホテル神奈中平塚で懇親会及び宿泊が行われた。なお、25 日 15 時から神奈川支部主催、平塚市・平塚市教育委員会・平塚市観光協会・神奈川県山岳連盟の後援のもと、第 1 回岡野金次郎碑前祭が、大山や丹沢山塊を背景に平塚市湘南平（高麗山公園）で開催された。日本山岳会初代会長である小島烏水と共に、岡野金次郎は日本山岳会創設にかかわった中心人物の一人である。記念すべき第 1 回岡野金次郎碑前祭に際し、込田伸夫神奈川支部長、落合克宏平塚市長、橋本しをり日本山岳会会長の挨拶、岡野金次郎氏ご子孫の岡野眞氏による献花や挨拶、小島烏水氏ご子孫の相良嘉洋氏の挨拶、神奈川支部の砂田定夫会員から岡野金次郎の功績紹介があり、神奈川支部の高橋あかね会員（フルート奏者）からフルート演奏、最後に「日本山岳会引き継がれる山岳祭プロジェクト」の板井広志プロジェクトリーダーから結びの言葉があった。

懇親会はグランドホテル神奈中・平塚の本館 2F 宴会場（百合の間）で 18：30 より開催され、込田支部長の歓迎挨拶、橋本しをり日本山岳会会長の挨拶、尾上昇元日本山岳会会長の乾杯で懇親会が開始された。全国から会員等 154 名が、埼玉支部からは 5 名（若林、清登、高橋努、平川、松本）が参加した。地理的制約で日頃会えない会員との懇親・親睦を深めることができた。

二日目は、交流登山として、A コース：三浦アルプス縦走（健脚向き）は、JR 逗子駅（バス）～風見橋～仙元山～乳頭山～IR 田浦駅の登山を実施した。また、B コース：鎌倉大仏ハイキングは、江ノ電長谷駅～鎌倉大仏～源氏山～JR 鎌倉駅のハイキングを実施した。C コース：自由行動。以上の 3 コースに分かれて、梅雨前の好天に恵まれた 1 日を、会員それぞれが親睦を深めつつ、登山やハイキングを楽しんだ。

神奈川支部の会員には、各々のコースの事前調査を含め当日のリーダーを担当し、安全登山に尽力いただいたことに感謝申し上げます。



湘南平（高麗山公園）岡野金次郎碑



懇親会・込田支部長挨拶

## 2024 年度 第 6 期「埼玉やま塾」第 1 回実技講座「大高取山」実施報告

埼玉やま塾スタッフ 塚越和子

1. 日程：2024.06.01(土曜)
2. 場所：大高取山、376.4m 越生
3. 参加者：やま塾 6 期生(15 名) 1 名欠席  
スタッフ 平川講師、飯塚、稲越、天池、坂倉、宮崎、塚越
4. 天候：晴れ 風なし、眺望あり
5. テーマ：登山前の準備、歩き方、読図の基礎
6. 行程 9:00 越生駅集合～10:30 登山口～11:00 越生神社、トイレ  
～11:45 白石様(石灰岩の露岩)～12:20 大高取山頂上～12:40 下山開始  
～14:00 桂木観音、トイレ休憩～15:00 越生駅 解散

### 【概要】

9 時、いよいよ初めての実技講習が、始まりました。平川講師は、模範として各自の靴(右脚)の紐を結び、丁寧に履き方の説明をしていきます。(他、歩き方、ストックの使い方など)

皆さんの様子は少し緊張気味でしたが、平川講師の淀みのない口調に、私は 3 年前の自分を思い出していました。



《越生駅集合》



《登山靴の履き方》



《歩行の基礎》

10時30分～

登山口から新緑の中を少しずつ登り始めました。緊張がほぐれてきたようで楽しそうな会話が、聞こえてきました。越生神社を通り、少し進んだ分岐点の道標では、低山でよく起こる読み間違い、見過ごし、の注意点を説明し、地図やヤママップの利用を勧める説明がありました。歩く順番も時々入れ替えて、平川講師の後ろに着く方は、質問しやすかったのではないかと思います。



《登山時の注意点講義》



《高取山・小休憩》



《分岐での注意点》

1 2 時 2 0 分～

大高取山山頂到着、支部旗と共に笑顔の記念撮影。「みなさん、埼玉支部に入ってくると嬉しい」と、心から思いました。頂上からの眺めは良好で、越生アルプス、関八州見晴台等を、眺めながらランチを摂りました。登りで少し疲れた様子の方も癒されたことと思います。



《頂上へ向かって》



《頂上からの眺望・越生アルプス》



《大高取山・集合》

1 2 時 4 0 分～

下山開始。

木の根が沢山出ている道では、平川講師が、歩き方、登り方、下り方、体重の乗せ方のデモンストレーションを行い、実際に見せることで、受講生は理解がより深まったようでした。



《正しい歩き方の講義》



《桂木観音到着》



《下山路》

1 4 時～

桂木観音～虚空蔵尊

桂木観音展望台からは関東平野が、見渡せ気持ちの良い場所でした。また溪流のそばでは、水音に癒され、中にはタオルを水につけて首にあて疲れをとる塾生もいました。蒸し暑い日でもあったので、気持ち良かったことでしょう。そこから有名な越生の柚子畑の間を通り舗装道路を歩き駅に向かいました。

1 5 時 予定通りの時刻、越生駅到着しました。

### 【まとめ】

今回の埼玉やま塾 6 期生は、男性 7 名(本日 1 名欠席)、女性 9 名、計 1 6 名、年齢も 2 9 才から 6 0 才代と、幅広く、また大学から山を経験されてるベテランの方々から、高尾山以来という初心者の方まで、バラエティーに富んだメンバーが揃っている楽しみなグループでした。

登山歴はそれぞれ違っても、山を知りたい、山が好き、という気持ちは、同じ?なので、話題も豊富で新緑の中、あちこちで楽しい会話が聞かれました。スタッフの私まで、興味津々でした。

1 回目の登山実技講習でしたが、机上とは違う触れ合いがあり、初めての方には、3 7 6 m とは

言え、充実感も味わえたのではないのでしょうか？

3 期生だった私も初心に帰り毎回復習をする日々です。

これから武甲山、伊豆ヶ岳、山小屋ありの雲取山と続きますが、平川講師のもとで、楽しみながらステップアップできると思いました。

## 「ペンリレー」第 6 回 「早春の寒葵と葵の御紋」

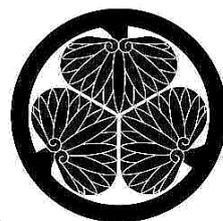
会員 萩原みか

私は幼少の頃から植物が好きではあった。家の中で繰り返し眺めていた植物図鑑と、父の集めた盆栽や草木の数々は季節ごとに花が咲いたり実がなったり紅葉したり葉を落としたりと違う表情をみせるこじんまりした実家の庭。今思えばその 2 つが私の知る身近な植物の世界だった。アウトドアとはまるで縁の無い環境に育った反動か、人生の後半に差し掛かった私は、自然の中の山野草を自分の目で見たい一心で山に登り始めてしまったのだ。近年は高山植物まで見たくて、夏山のために冬トレと称して早春から花探索に低山を歩き回っている。

さて、早春に見つけるカンアオイを見るたびに思う事がある。シクラメンに似たハート型の葉をもち、花は地面スレスレに顔を出している。これ花なの？と信じがたいくらい地味な花。湿度高めな林道の脇の斜面に見つけることが多い。ギフチョウが好むそうだ。

一昨年初めてカンアオイ属ウマノスズクサ科のフタバアオイを棒ノ嶺で見つけた。同属のカンアオイと似た葉を持つが、花がまん丸でぶら下がっている。まさに馬の鈴のよう。そのフタバアオイについてあれこれ調べている過程で、私は徳川家の家紋である三つ葉葵紋は、葵の葉っぱをデザインしたものと思いこんでいたが、葵の御紋のモデルはフタバアオイと知った。なんと三つ葉葵はデザイン化された架空のものだったのだ。

私は植物好きで時代劇も好きな子供だった。テレビドラマ「水戸黄門」では、毎回必ず『この紋所が目に入らぬか！控えおろう！』の決め台詞で格さんがふところから取り出した印籠をかかげる。その印籠には金色の三つ葉葵の紋が燦



然と輝き、悪者どもが一斉に「へへー」とひれ伏すのだ。徳川家の葵の御紋の威力は絶大だ。毎度お馴染みの展開だが毎週見逃せなかったし、繰り返しの夕方の再放送も日常であった。チャンバラや時代劇は今や『昭和は遠くなりけり』の感があるが、私の中ではこの葵の御紋と刀剣がいつまでも身近なのだ。

ちなみに日光男体山の山頂では天に向かって立っている巨大な剣を見られた時は涙が出る程感無量だった。

早春のハート形の葉を持つカンアオイ属を見つけては葵の御紋を連想し、山頂に剣が掲げている山にはいつか必ず登るぞと思っている。さて、次はどの山で面白い出会いがあるか。山歩きの計画を立てる時からワクワクしている私なのだ。



精一杯の作り笑顔 下山もあるし…

※次の執筆者は、那須朋美さんです。

新入会員 自己紹介

事務局長 林 信行

《正田 範満 会員番号 12823》

《正田 緑 会員番号 12824》

ご無沙汰しております。正田です。さてこの度、私達は埼玉支部に所属することになりました。埼玉支部も埼玉県山岳スポーツライミング協会に加盟されたとのことで、資格維持の必要もあり、参加することに致しました。ここ 5 年間は介護やコロナの影響で山に行けてなく、スキーもオフピステは行けず、細々とゲレンデスキーをしている程度でした。これからも、機会があれば山行やイベントにご一緒できる様にとお思います。宜しくお願いいたします。

《鈴木晴雄 会員番号 17218》

私は、身近な人からも指摘されるのですが、ワークホリックな傾向であり、若かりし頃より楽しんできた趣味の登山をもっと充実すべきと考えました。そのための近道として、行き着いたのが日本山岳会埼玉支部です。20 代後半から、南北アルプスや東北、北海道の山の縦走、ネパールやパタゴニアのトレッキングなどをやってきましたが、そのほとんどがソロです。この度支部に入会させていただき、山の友との交流や登山技術の取得を楽しみにしております。高齢な新人ですが、どうぞよろしくお願いたします。

《出口洋三 会員番号 17291》

寄る年波のこの年齢になって、(私にとって名だたるこの会、そしてメンバーの方々と)県内や近県の山行に同行させていただくことになるとは、これこそ奇縁のなせるわざではなかろうかと喜びつつ、その反面これまで味わったことのない緊張感を味わっております。私のこれまでの主な山行と言えるものは、20 歳代後半～30 歳代後半にかけての勤め先の仲間とのもので、殆どが夏山の縦走です。どうしても登ってみたい山がありそこへの単独行が幾つかありました。ここ十年くらいは山行の回数がめっきり減ってしまいました。体力全般の衰えは自認せざるを得ませんが、この先できることならその維持・回復に努めたいと思っております。

《田中健介 会員番号 A0598》

生まれも育ちも東京の下町です。登山のスタートは、学生時代に人工物に囲まれた環境から離れて、自然の中に深く分け入ることができる山岳部に入部した時からです。社会人になり山から離れて、登山の記憶も不確かになってしまいましたが、最近、いくつかの登山をして、もっと幅広く登山をしたいと思い日本山岳会に入会しました。活動を通じて、同じ趣味を持つ仲間と一緒に新しい山々を探索したり、経験を共有したりすることを楽しみにしています。どうぞよろしくお願いたします。

《田中利昌 会員番号 A0606》

24 年 4 月から準会員として入会しました田中利昌と申します。私が登山を始めた切っ掛けは 9 年前に友人に誘われて行った燕岳でそれまでに感じたことのない達成感を得られたことです。その後普段はほとんどが単独での山行であり幸いにも山での大きなトラブル・事故は経験していませんが運が良かっただけなのかもしれません。これまでに登山技術・事故対応等について学んだことも無く、また最近の熊による被害報道も気になり単独での登山に不安を感じるようになりました。経験豊富な方とご一緒に基礎から安全登山技術を身に付け、皆様と登山活動を楽しんでいければと思います。どうぞよろしくお願いたします。

《根本忠一 会員番号 17287》

皆さま、はじめまして。今回お仲間に入れていただくことになりました根本忠一（ねもとただいち）と申します。65 歳のオールドルーキーで気恥ずかしいのですがよろしくお願いたします。これまでは登山ツアーに参加したり、秩父や奥多摩にひとりで行ったりしていたのですが、山登りの基本をリアルに学びたいと思い埼玉支部に入会をお願いした次第です。まだ仕事をしていてフルタイムで働いております。今年は特に仕事が忙しくなりそうですが、極力時間を作り、やま塾や支部の行事に参加したいと考えています。なにとぞよろしくお願いたします。

事務局からのお知らせ

事務局長 林 信行

埼玉支部会員 在籍者数及び異動

2024 年 5 月 31 日現在

会員	125 名	準会員	23 名	計	148 名
----	-------	-----	------	---	-------

【入 会】

会 員			準会員		
12823	正田 範満 (久喜市)	4 月	A0595	日向 良平 (川越市)	3 月
12824	正田 緑 (久喜市)	4 月	A0598	田中 健介 (台東区)	3 月
17218	鈴木 晴雄 (東松山市)	3 月	A0606	田中 利昌 (本庄市)	4 月
12287	根本 忠一 (さいたま市)	5 月			
17291	出口 洋三 (坂戸市)	5 月			
17253	渡辺 徹也 (入間市)	4 月準会員から移行			
17254	萩原 みか (川越市)	4 月準会員から移行			

17255	町田 美春 (飯能市)	4 月 準会員から移行		
17757	磯崎 佳奈 (所沢市)	4 月 準会員から移行		
17259	行方 真由美 (春日部市)	4 月 準会員から移行		

【退 会】

会 員			準会員		
11183	岩城 スミ	3 月	A0511	亀山 綾子	3 月



梅池自然園 初夏

【編集後記】

新年度を迎え新入会員も増えて新しい風が吹いてきたようです。

新入会員の皆さんの自己紹介文を読ませていただくと、山の経験を積んで知識や技術を身につけさらに上を目指したいという熱い気持ちが伝わってきます。

毎年少しずつ役員の交代もあり、新役員になられた方には勤務をされている方も多く支部のために協力して下さることに感謝します。

先日、久しぶりに平日山行に参加しましたところ若い人の参加も多く驚きました。

年齢の差はあっても和気あいあいと山を楽しめるのは素敵なことだと思います。山行にはいろいろなスタイルがあると思いますがどんな山行でも怪我や事故のないよう楽しい山岳ライフになることを願っています。

( 橋本 )

公益社団法人日本山岳会 埼玉支部報 第 42 号 2024 年 6 月 20 日発行

発行者：公益社団法人日本山岳会 埼玉支部 支部長 大山光一

事務局：350-0201 埼玉県坂戸市赤尾 1910 林信行方

電 話：080-2256-4829 Email: stm@jac.or.jp

埼玉支部ホームページ：https://jacl.or.jp/saitama/